

SUN なまちづくり。

やりたいことを実現できる
地域の人が主役になる——
そんなまちづくりを



ぶちっとボラ代表 / ゆりのき子ども
ネットワーク地域コーディネーター

長谷川 智子 さん

Tomoko Hasegawa ゆりのき台

ラジオ・ハニーFM でもっと詳しく聴けます! 【8/16 15時10分~】

「多世代が交流できるまちづくりを」学校を核に子どもや地域の大人、教員や保護者らをつなぎ、活動する長谷川智子さん。生まれ育った仙台から、夫の転勤で平成10年に三田へ住まいを移した。

転機は、子どもが中学生の時。やろう!と言ったことをカタチにしていくPTA役員の姿に胸を打たれた。「やろうと思えばできるんだ!私にも何かできるかも」モチベーションがあがった。

一方、「実は人見知りの性格」と話す長谷川さん。初めは顔見知り が少なかったが、地域での活動を通してたくさんの人と出会った。

「ものづくりや子どもと関わるのが得意な人」地域には力を持った人がいる。やりたい人がやりたい時に地域で活動できる仕組みがあれば——その想いから平成17年に「ぶちっとボラ」を立ち上げた。ぶちっとボラはその都度企画に賛同する人が集まる「プロジェクト型」グループで、若い親世代から子育てが一段落した世代、経験豊富なシニア世代まで幅広い世代がつながり活躍する。「これやりたい!」誰かが話すと、どんな話も広がり広がっていく。「自分は何もできないけど、人と人をつないでいくと思いがけないことが起こったりするんです。周りの皆さんのおかげです」と長谷川さん。

ゆりのき台小学校を拠点に毎月開催する「ゆうゆうクラブ」は、

まず子どもたちにやりたいことを聞くと、「クリスマス会がしたい」「市長に会いに行きたい」——子どもたちの想いに耳を傾け、実現に向け必要な時だけ手を差し伸べる。「子どもたちの発想は本当に面白くて」と感心する日々。

子どもたちに関わる団体で立ち上げた「ゆりのき子どもネットワーク」では地域コーディネーターも務めるなど、活動は多岐にわたる。誰かのためが、巡り巡って自分のためになっていくと話す。共通するのは「誰だっこここにいい。そんな居場所があるまち、地域の人が主役になるまちでありたい」という想い。長谷川さんは「今日も誰かと誰かをつないでいく。」

PTA活動をしていた時、どこへ行っても出会う長谷川さんと次第に顔見知り。「子どもたちが放課後にもっと自由に遊べたらいいのね」なんて立ち話をしたら、「一緒にやらない?」その声をかけてくれたことを今も覚えています。出会って18年、それぞれ別のことをしてきて私たち。でもどこかでいつもつながっている「同志」です。子どもたちや地域のこと、常に現場で見ているその姿を信頼し尊敬しています。



ゆりのき台地域
活動協議会理事
とあや
遠矢 まり理さん